

**今シーズン（2016年12月～2017年1月）の忘新年会の動向を調査
 予算は平均4,326円/回（前年比-62円）
 参加回数は「前年並み」だが
 プライベートな相手との忘新年会は減少傾向**

株式会社リクルートライフスタイル（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：浅野 健）の外食市場に関する調査・研究機関「ホットペッパーグルメ外食総研」（<https://www.hotpepper.jp/ggs/>）は、首都圏・関西圏・東海圏の男女約1万人を対象として、今シーズン（2016年12月～2017年1月）の忘新年会についてのカスタマーアンケートを実施し、年末年始宴会シーズンの動向を発表いたします。

<要約>

POINT① 今シーズンの忘新年会への参加回数は「前年並み」の見込み

・・・ P3-5

- 3圏域（首都圏・関西圏・東海圏）合計では、参加回数が「昨年と変わらない」が78.5%と最多。

【参考】

前シーズン（2015年12月～2016年1月）の忘新年会の参加回数平均は忘年会1.17回、新年会0.65回。

POINT② 1回あたりの予算は4,326円/回（前年比-62円）

・・・ P6-7

- 今シーズンの忘新年会1回あたりの予算は5,000円～6,000円未満（29.6%）と3,000円～4,000円未満（26.2%）が多く、平均想定額4,326円と微減（前年比-62円）の予想。想定額の前回比マイナスは調査を開始した2012年以来、初めて。
- 圏域別では首都圏の想定額の下げ幅（前回調査4,414円→今回調査4,335円）がもっとも大きい（-79円）。

**POINT③ 参加予定の忘新年会は「会社・仕事関係」が最多の44.1%。
 プライベートな相手との忘新年会の機会が経年で減少傾向**

・・・ P8-9

- 今シーズンの忘新年会で参加する機会がありそうな関係性は「会社・仕事関係（44.1%）」（前年比-0.1pt）がもっとも多く、続いて「友人・知人関係（38.6%）」（前年比-2.1pt）だった。
- 積極的に参加したい忘新年会の相手は「友人・知人関係」31.4%（前年比-2.1pt）が前年比で下がり、「会社・仕事関係」19.0%（前年比-0.8pt）との差が縮まった。
- ここ5シーズンの推移を見ると、プライベートな相手との忘新年会は参加機会、積極参加意向とも減少傾向。

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press>

調査概要と回答者プロフィール

- ◎調査名 外食市場調査(2016年10月分)
- ◎調査方法 インターネットによる調査
首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査(外食マーケット基礎調査)の中で、昨シーズンの忘年会・新年会についての実績や、今シーズンの意向などを聴取。
- ◎調査対象 首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県)、関西圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県)、東海圏(愛知県、岐阜県、三重県)に住む20~69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)

■事前調査

- ①調査目的 本調査の協力者を募集するために実施
- ②調査時期 2016年9月21日(水)~2016年9月30日(金)
- ③調査対象 首都圏、関西圏、東海圏に住む20~69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)
- ④調査内容 本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
- ⑤配信数 326,188 件
- ⑥回収数 36,091 件
- ⑦本調査対象者数 16,456 件

◆本調査対象者の割付について

- ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付をおこなって回収した。
- ・性年代別10区分×地域別25区分(首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分)=250セル について、平成26年人口推計(総務省)に基づき割付をおこなった。
- ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000s、東海圏2,000s、合計8,000sとした。

■本調査

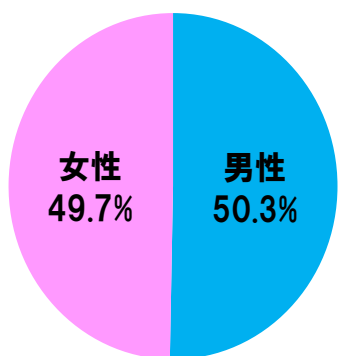
- ①調査方法 ・事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
 - ②調査期間 2016年11月1日(火)~2016年11月8日(火)
 - ③配信数 13,568 件
 - ④回収数 10,354 件 (回収率 76.3 %)
 - ⑤有効回答数 10,264 件 (首都圏 5,247 件、関西圏 2,651 件、東海圏 2,366 件)
- ※回収された票のうち、自由回答コメントから、主旨に合わない判断された票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1カ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

◆集計方法について

- ・本調査結果は、平成26年人口推計(総務省)における割付(性年代別10区分×地域別25区分=250セル)別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計をおこなっている。
- ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 10,264 件(首都圏: 5,832 件、関西圏: 2,861 件、東海圏: 1,571 件)

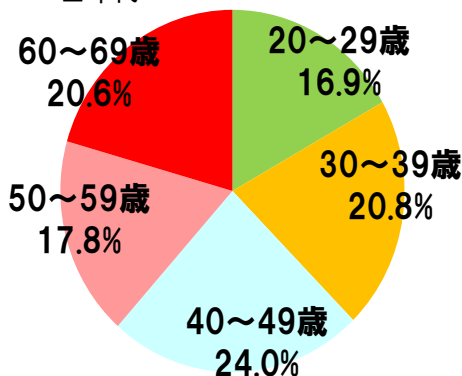
◆回答者プロフィール(ウェイトバック後)

■性別



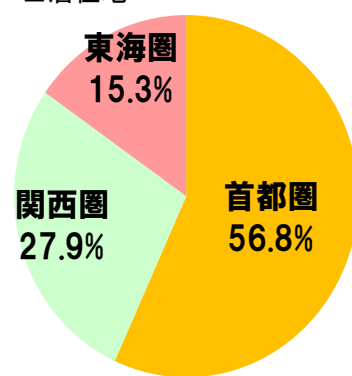
n=10,264

■年代



n=10,264

■居住地

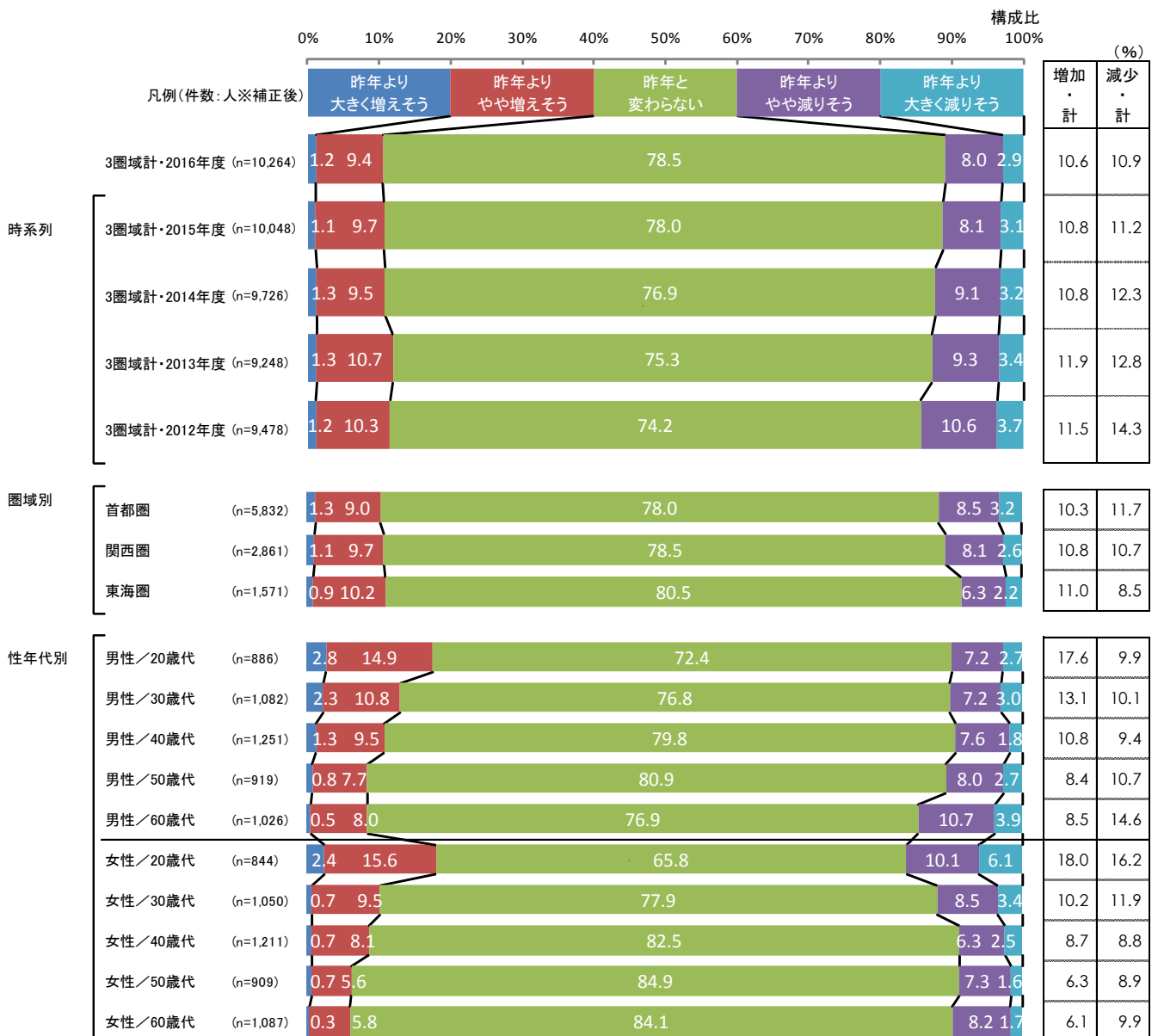


n=10,264

1. 今シーズンの忘新年会への参加回数は「前年並み」の見込み

今シーズン（2016年12月～2017年1月）の忘新年会の参加回数の見込みは「昨年と変わらない」という回答が首都圏・関西圏・東海圏の3圏域合計で78.5%（前年同調査では78.0%）を占めた。2012年の調査開始以来「昨年と変わらない」が増加傾向にある。「昨年より大きく増えそう」「昨年よりやや増えそう」の増加派は計10.6%（前年同調査では10.8%）、「昨年より大きく減りそう」「昨年よりやや減りそう」の減少派は計10.9%（前年同調査では11.2%）となり、減少派が増加派を微妙に上回ったが、その差は年々小さくなる傾向にあり、全体として大きな変化はなさそうだ。過去4年では、「減少派」が「増加派」をわずかに上回る事前の見込みに対し、実際の参加の有無（次ページ参照）も見込み通り微減してきた。今シーズンもふたを開けたら微減、という状況は十分あり得ると考えられる。

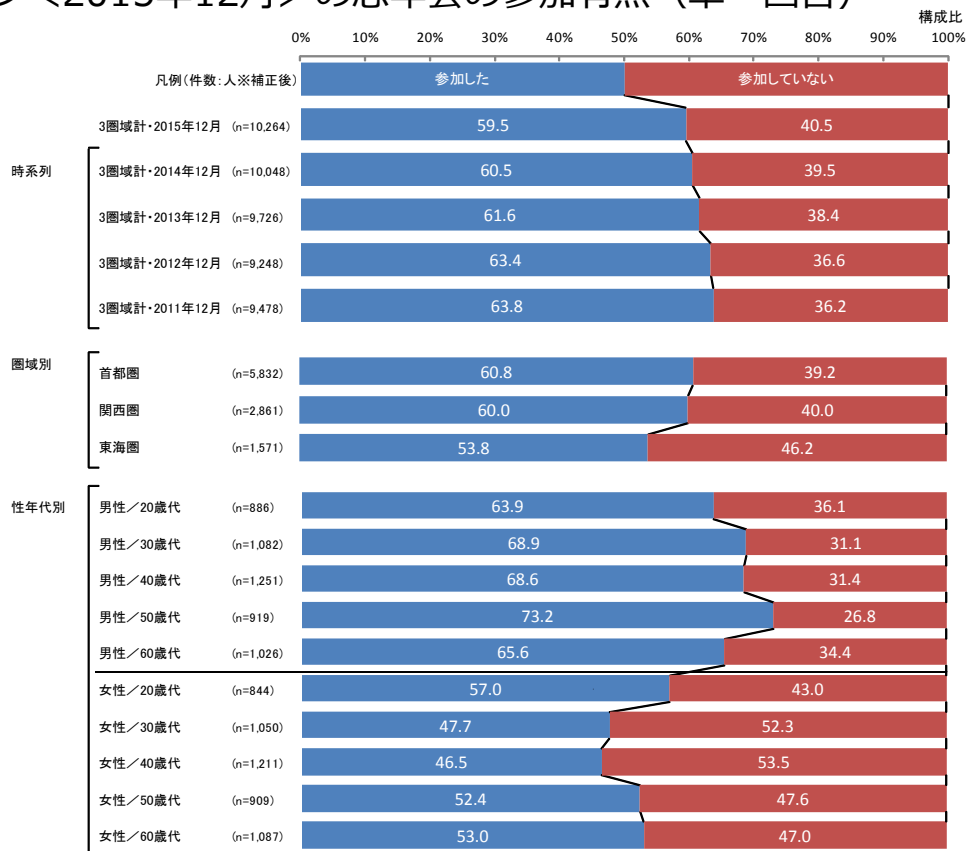
■ 今シーズン<2016年12月～2017年1月>の忘年会・新年会の参加回数の見込み (単一回答)



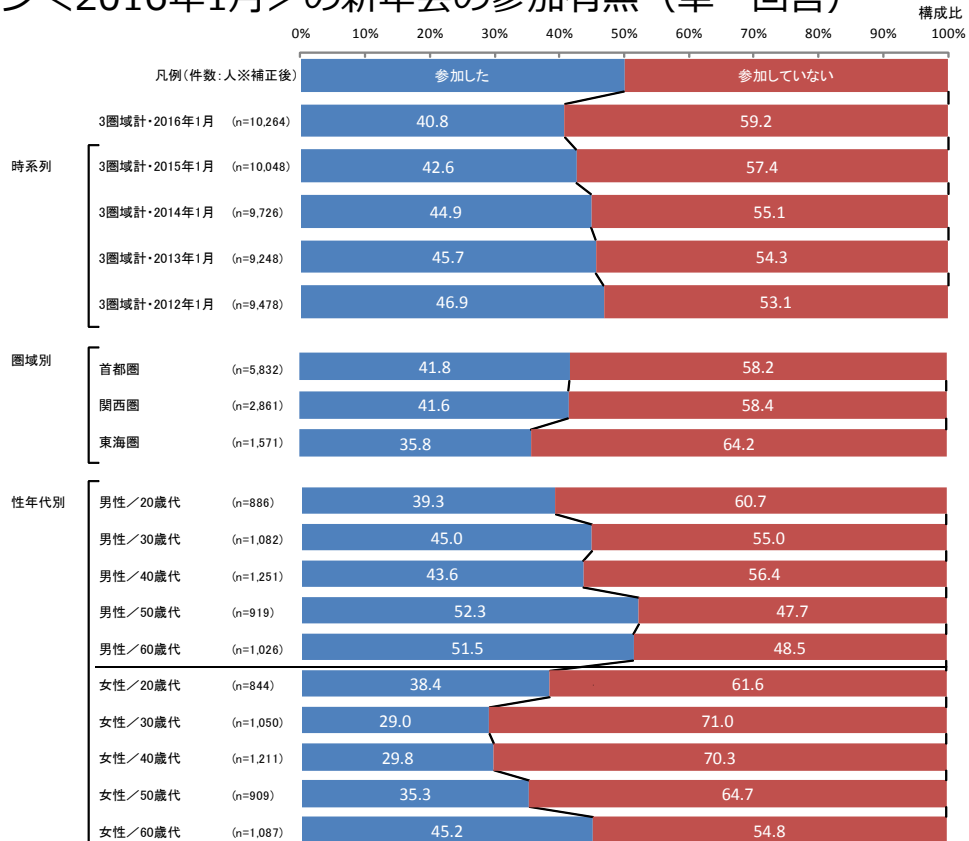
2. (参考) 前シーズン【2015年12月～2016年1月】の忘年会・新年会参加有無

※今回(2016年)調査で聴取

■ 前シーズン<2015年12月>の忘年会の参加有無 (単一回答)



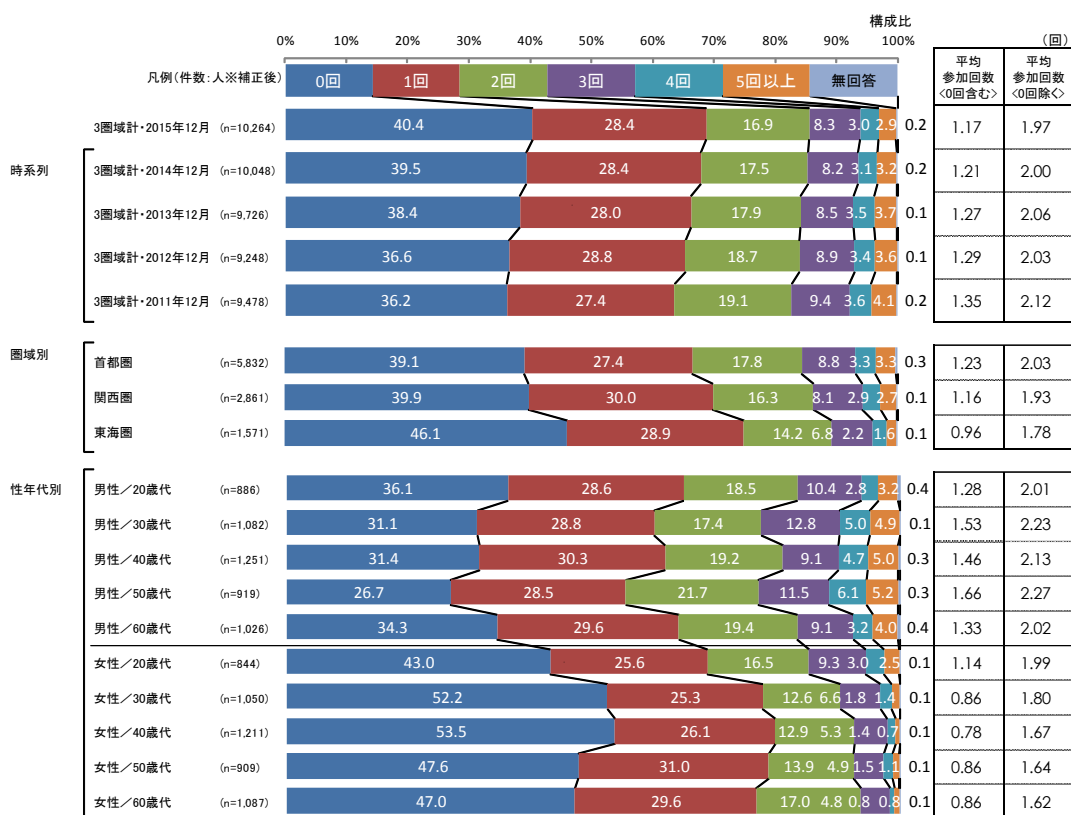
■ 前シーズン<2016年1月>の新年会の参加有無 (単一回答)



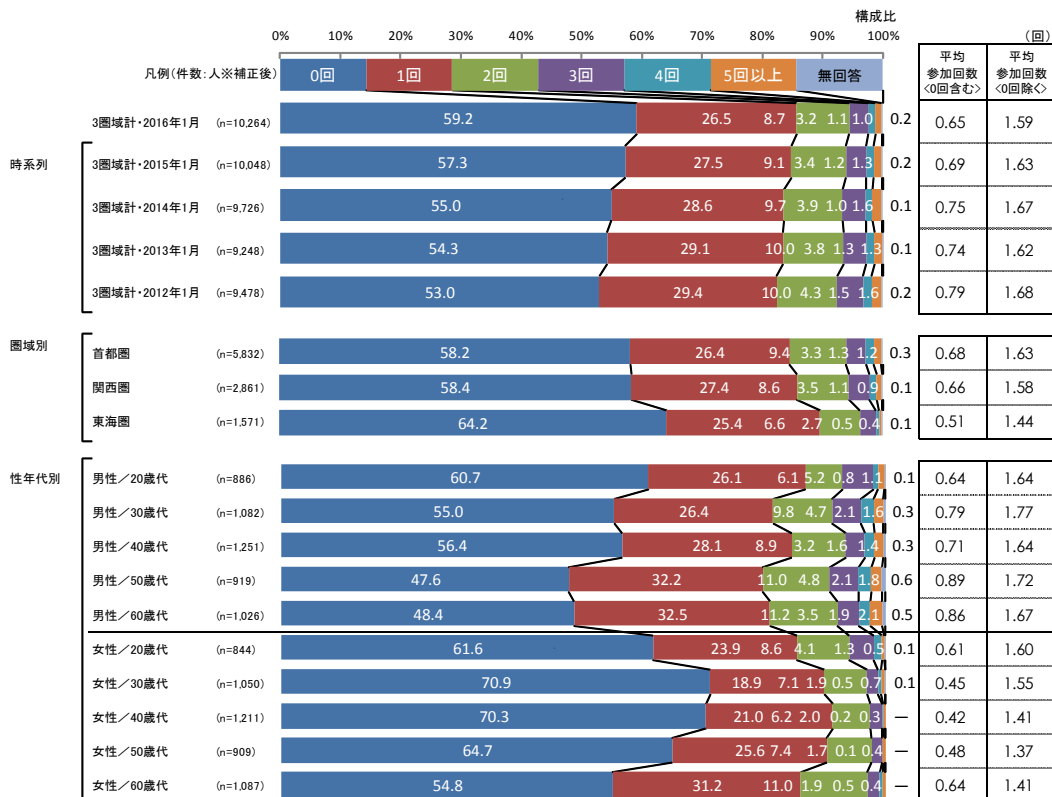
3. (参考) 前シーズン【2015年12月～2016年1月】の忘年会・新年会参加回数

※今回(2016年)調査で聴取

■ 前シーズン<2015年12月>の忘年会の参加回数 (実数回答)



■ 前シーズン<2016年1月>の新年会の参加回数 (実数回答)



※「平均参加回数」は、外れ値として上下0.1%の範囲のデータを除いて集計している。そのため、0回の出現率が前ページと若干異なる場合がある。

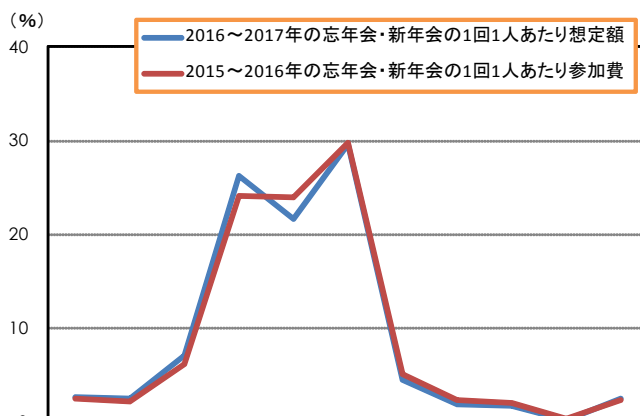
4. 1回あたりの忘新年会予算は2012年の調査開始以来初のマイナス予想。 参加費実績では、昨年からすでにマイナス遷移

忘新年会の予算については、前シーズンの実績と今シーズンの想定予算額を聴取した。想定予算額では、1回あたり3,000円～4,000円未満（3圏域計：26.2%）と5,000円～6,000円未満（3圏域計：29.6%）のふたつのボリュームゾーンがある。0円（自分では払いたくない）を除く今シーズンの想定額は4,326円（前年比-62円）と2012年の調査開始以来、初のマイナス予想となった。実際の参加費実績で見ると、前々シーズンまで2期連続で上昇した後、前シーズンは減少に転じている。圏域別（次ページ）では、3圏域とも前シーズン比ではマイナスの予測であるが、首都圏での下げ幅（前回調査4,414円→今回調査4,335円、-79円）がもっとも大きかった。また、前シーズンの参加費実績は、首都圏よりも関西圏、東海圏でそれぞれ単価が高かった。

■ 忘年会・新年会の支出実績と想定金額（2012年忘年会～2017年新年会） （1回あたり参加費・実数回答）

※参加費は参加者ベース、想定額は参加する機会がありそうな人ベース

<3圏域計>



		(件数:人※補正後)	構成比(%)												平均(円)		
			0円	1~2千円未満	2~3千円未満	3~4千円未満	4~5千円未満	5~6千円未満	6~7千円未満	7~8千円未満	8~9千円未満	9千~1万円未満	1万円以上	無回答	参加費	想定額	想定額の 前年比
1回1人あたり想定額	2016～2017年	7,488	2.6	2.4	7.0	26.2	21.5	29.6	4.4	1.9	1.7	0.2	2.4	0.1	-	4,326	▲62
1回1人あたり参加費	2015～2016年	5,309	2.5	2.1	6.1	24.0	23.9	29.7	5.0	2.2	1.9	0.3	2.2	0.1	4,410	4,388 *1	+76
	時系列 2014～2015年 *1	5,215	2.2	2.2	6.4	25.3	23.0	28.3	5.1	2.4	1.9	0.3	2.8	0.1	4,469 *1	4,312 *2	+53
	2013～2014年 *2	5,235	2.2	2.4	6.5	27.4	23.4	26.7	4.5	2.2	1.7	0.2	2.9	0.1	4,398 *2	4,259 *3	+20
	2012～2013年 *3	5,189	2.1	2.3	6.4	29.0	23.2	26.2	4.1	2.3	1.7	0.1	2.5	0.1	4,325 *3	4,239 *4	-

*1: 2015年調査で聴取したもの
*3: 2013年調査で聴取したもの

*2: 2014年調査で聴取したもの
*4: 2012年調査で聴取したもの

構成比(%)

※平均(円): 0円を除いた平均値

※平均は「0円（自分では払わない）」を除いて集計。

※外れ値として各費用の上下0.1%の範囲のデータを除いて集計している。

※想定額は「自分で払ってもいい額」として尋ねている。

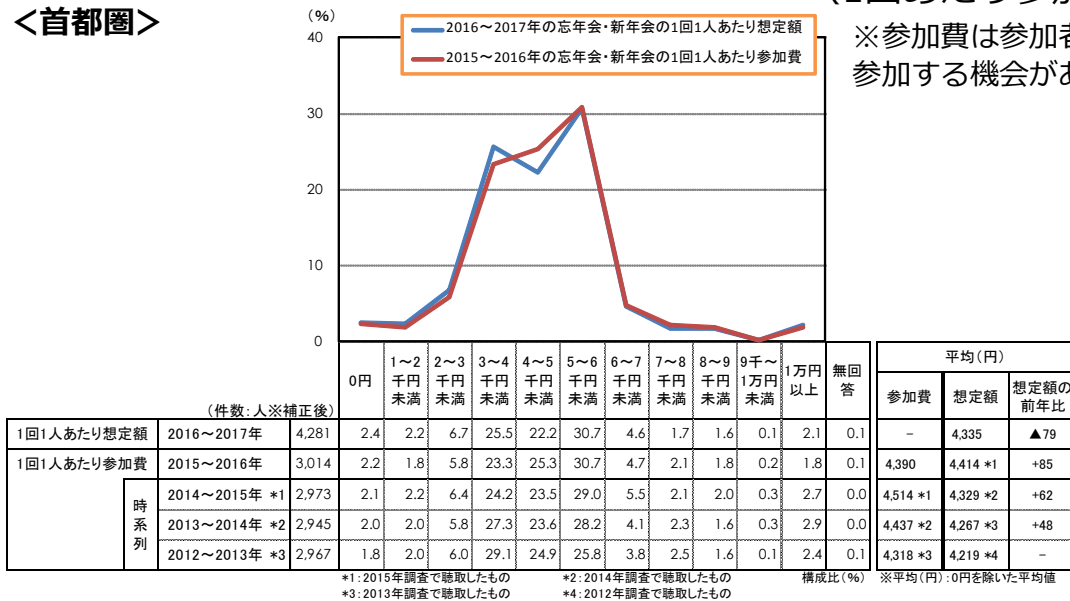
※参加費は「自分で払ってなくても会にかかった1人あたりの金額」を尋ねている。

■ 忘年会・新年会の支出実績と想定金額 (2012年忘年会～2017年新年会・圏域別)

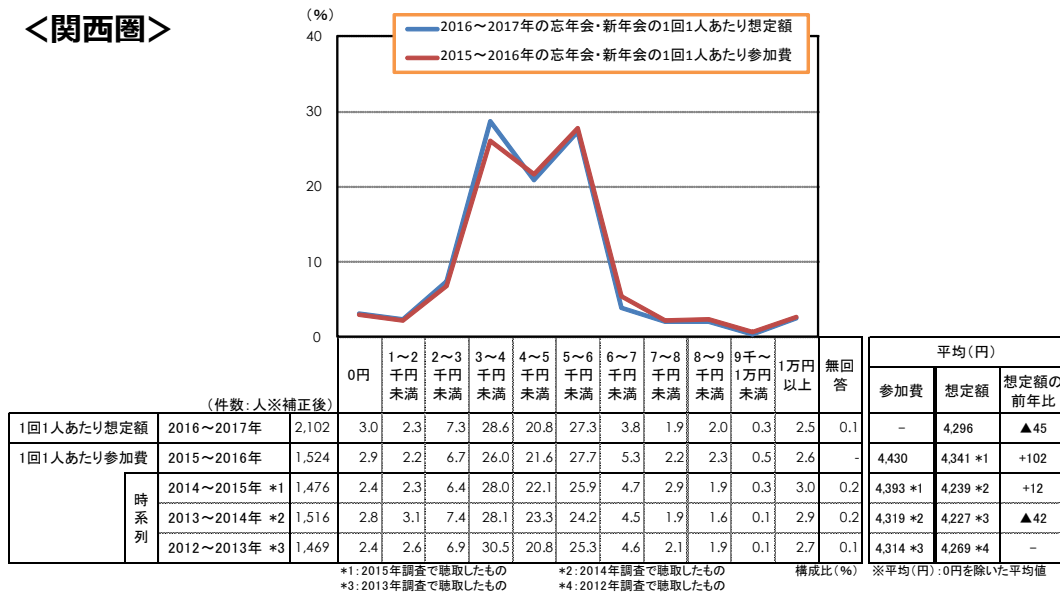
(1回あたり参加費・実数回答)

※参加費は参加者ベース、想定額は参加する機会がありそうな人ベース

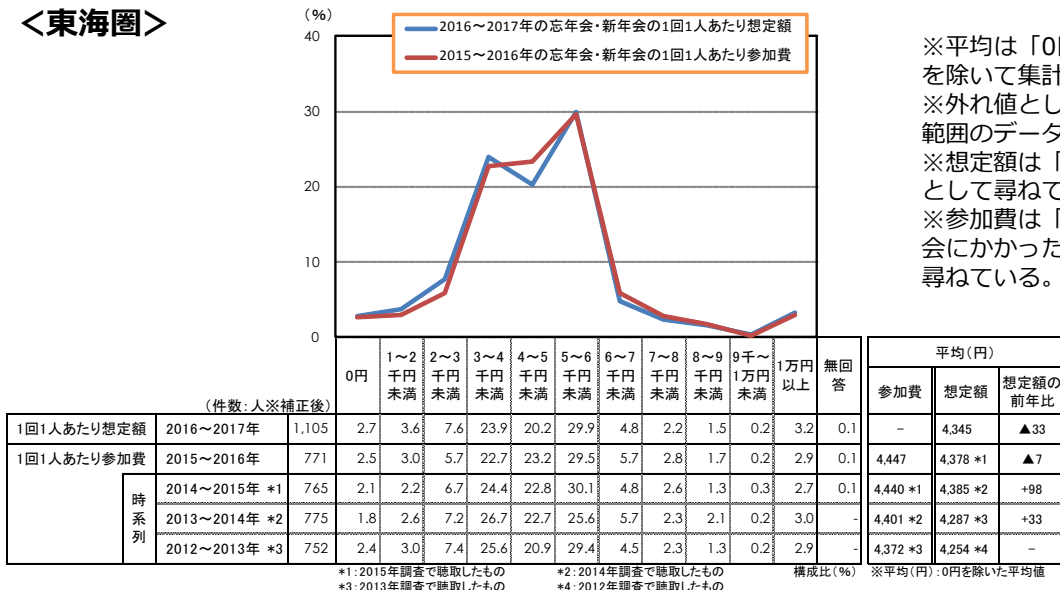
<首都圏>



<関西圏>



<東海圏>

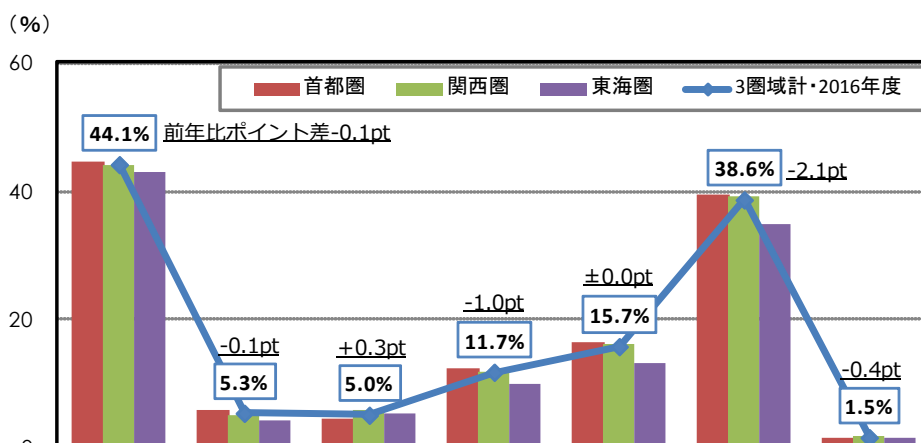


※平均は「0円(自分では払わない)」を除いて集計。
 ※外れ値として各費用の上下0.1%の範囲のデータを除いて集計している。
 ※想定額は「自分で払ってもいい額」として尋ねている。
 ※参加費は「自分で払ってなくても会にかかった1人あたりの金額」を尋ねている。

5. 「プライベート」な相手と実施する忘新年会が5年連続減少傾向

今シーズンの忘新年会を誰と行うかについて聴取した結果、3圏域合計でもっとも多かった相手は「会社・仕事関係」で44.1%、次いで「友人・知人関係」が38.6%が多かった。前シーズンの調査と比較すると、「会社・仕事関係」は0.1ポイントの微減で過去4回の調査でもほぼスコアが安定している。一方、「友人・知人関係」は-2.1ptとやや大きく減少し、時系列で見ても、2012年～2013年シーズン（47.0%）と比べると、減り幅が大きいことがわかる。他に「家族・親族関係」「趣味・サークル関係」「学校関係」なども、経年で見ると減少傾向である。また、圏域別では、首都圏・関西圏に比べると東海圏で「友人・知人関係」「家族・親族関係」「趣味・サークル関係」などで3圏域平均との乖離がやや大きく、プライベートな相手と実施する忘新年会が少なめという特徴がある。

■ 今シーズンに参加する機会がありそうな忘年会・新年会の関係 (複数回答)



		(件数:人※補正後)								
		会社・仕事関係	学校関係	地域の集まりの関係	趣味・サークル関係	家族・親族関係	友人・知人関係	その他の関係	当てはまるものはない	
時系列	3圏域計・2016年度	10,264	44.1	5.3	5.0	11.7	15.7	38.6	1.5	27.0
	3圏域計・2015年度	10,048	44.2	5.4	4.7	12.7	15.7	40.7	1.9	25.5
	3圏域計・2014年度	9,726	44.2	6.0	4.9	13.2	17.5	41.9	1.9	23.9
	3圏域計・2013年度	9,248	44.4	6.8	5.5	14.1	18.0	43.6	2.2	22.4
	3圏域計・2012年度	9,478	44.3	7.3	6.0	15.5	19.2	47.0	1.3	21.7
圏域別	首都圏	5,832	44.5	5.8	4.5	12.2	16.2	39.3	1.5	26.6
	関西圏	2,861	44.0	4.9	5.8	11.7	16.1	39.1	1.6	26.6
	東海圏	1,571	43.0	4.2	5.1	9.7	13.1	34.8	1.3	29.6
性年代別	男性／20歳代	886	52.1	16.5	3.4	15.8	11.0	39.7	1.5	22.5
	男性／30歳代	1,082	66.4	4.6	5.0	10.2	11.4	37.4	1.0	21.6
	男性／40歳代	1,251	66.0	2.4	5.0	9.5	9.9	31.2	1.5	21.6
	男性／50歳代	919	66.0	3.0	5.7	11.2	13.2	37.9	2.1	18.3
	男性／60歳代	1,026	39.0	4.8	11.1	13.4	19.6	43.9	3.5	24.1
	女性／20歳代	844	42.1	11.0	1.7	9.8	16.6	44.6	1.4	25.6
	女性／30歳代	1,050	34.8	3.6	2.8	5.2	18.3	36.9	0.9	33.7
	女性／40歳代	1,211	31.7	5.8	3.2	7.3	16.0	35.8	0.8	36.4
	女性／50歳代	909	29.9	3.6	3.5	13.4	18.8	40.5	1.8	32.7
	女性／60歳代	1,087	13.2	0.6	7.7	22.3	22.9	41.4	1.0	32.1

太字 3圏域計より10ポイント以上高い項目

3圏域計より10ポイント以上低い項目

※「3圏域計・2015年度」は2015年調査、「3圏域計・2014年度」は2014年調査、「3圏域計・2013年度」は2013年調査、「3圏域計・2012年度」は2012年調査で聴取したもの

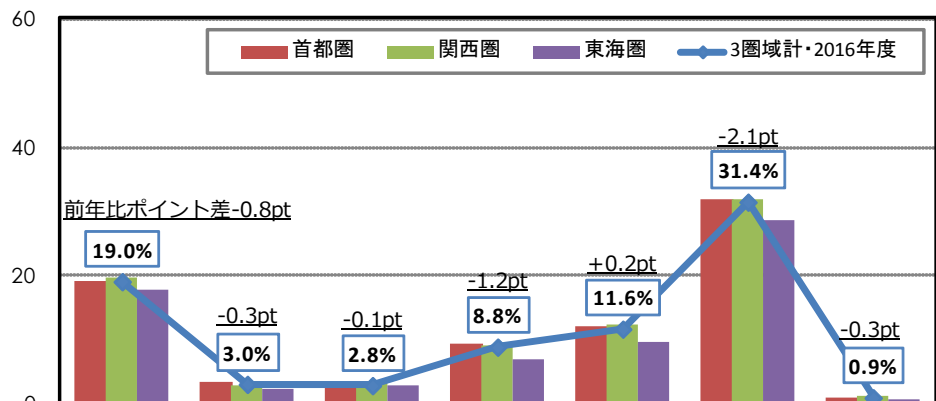
※前年比ポイント差:「(3圏域計・2016年度)-(3圏域計・2015年度)」で算出

6. 忘新年会に積極的に参加したい相手との関係性では、「友人・知人関係」が減少、「会社・仕事関係」と差が縮まる

今シーズンの忘新年会で「積極的に参加したい関係」を聴取したところ、「友人・知人関係」が3圏域合計で31.4%と最も多かったが、前年比では-2.1ptの減少（4年連続の減少）であった。「会社・仕事関係」は参加機会が多い（前ページ参照）割には、積極的に参加したい割合は低めで19.0%。両者のスコア差は2012年調査では20.7pt、2013年調査では16.6pt、2014年調査では14.7pt、2015年調査では13.7pt、今回調査では12.4ptと着実に縮まっている。人材難で宴会費用負担など福利厚生を手厚くする企業の動きがある会社宴会に比べて、自己負担率の高いプライベート宴会への参加意向が相対的に下がっている可能性も考えられる。

■ 今シーズン、積極的に参加したい忘年会・新年会の関係（複数回答）

(%)



		会社・仕事関係	学校関係	地域の集まりの関係	趣味・サークル関係	家族・親族関係	友人・知人関係	その他の関係	当てはまるものはない	
(件数:人※補正後)										
	3圏域計・2016年度	10,264	19.0	3.0	2.8	8.8	11.6	31.4	0.9	47.8
時系列	3圏域計・2015年度	10,048	19.8	3.3	2.9	10.0	11.4	33.5	1.2	45.0
	3圏域計・2014年度	9,726	19.8	3.8	2.7	10.3	12.7	34.5	1.1	43.6
	3圏域計・2013年度	9,248	19.6	4.2	3.2	11.1	13.2	36.2	1.1	41.2
	3圏域計・2012年度	9,478	20.1	4.5	3.5	12.2	14.0	40.8	0.7	38.1
	圏域別	首都圏	5,832	19.0	3.3	2.5	9.3	11.9	31.9	1.0
	関西圏	2,861	19.7	2.9	3.4	9.0	12.2	31.9	1.1	46.4
	東海圏	1,571	17.8	2.3	2.8	6.9	9.6	28.6	0.6	52.1
性年代別	男性/20歳代	886	23.7	11.0	2.4	12.1	5.8	32.3	0.7	45.7
	男性/30歳代	1,082	29.2	2.7	3.0	7.9	7.8	29.2	0.7	48.3
	男性/40歳代	1,251	30.8	1.2	2.9	7.5	6.9	25.5	1.1	47.1
	男性/50歳代	919	28.3	2.1	2.9	8.5	9.3	30.9	1.1	44.5
	男性/60歳代	1,026	20.8	3.0	7.4	10.8	16.0	36.3	2.1	40.1
	女性/20歳代	844	15.5	6.4	0.9	7.1	10.9	37.2	1.0	46.3
	女性/30歳代	1,050	13.0	1.3	1.6	3.6	13.4	28.9	0.6	54.5
	女性/40歳代	1,211	10.4	2.7	1.3	5.3	12.1	29.2	0.4	56.0
	女性/50歳代	909	12.9	1.9	1.8	9.7	14.8	33.1	1.2	48.3
	女性/60歳代	1,087	5.4	0.3	3.7	16.7	19.0	34.1	0.5	45.3

太字 3圏域計より10ポイント以上高い項目

3圏域計より10ポイント以上低い項目

※「3圏域計・2015年度」は2015年調査、「3圏域計・2014年度」は2014年調査、「3圏域計・2013年度」は2013年調査、「3圏域計・2012年度」は2012年調査で聴取したもの

※前年比ポイント差:「(3圏域計・2016年度)-(3圏域計・2015年度)」で算出